

ひとつのものに向かって

裁断の工程



☆一つの作業を二人で協力しながらできるのでやりやすいです。役割の分担があるので作業に集中して取り組みます。

Tさん

利用者の方の声

折りの工程



☆最初のころは自分のやることさえ分からなかったです。どこにきれいに並べたら良いか分かりませんでした。型があることでズレも少なくすることができました。

Sさん

現在、第2事業所足羽サポートセンターで受注・加工している作業の中には、園芸用品の組み立てやCDケースの検品などのほかに、大人数によって工程をすすめているものがあります。今回はその作業に携わる利用者の方々の作業の様子や、軌道に乗るまでに工夫してきたことを紹介します。

戸惑いからのスタート

足羽サポートセンターで新しく受注した今回の作業は、森林での鳥獣被害から木を守るという防護ネットの裁断や結束が主な内容です。最初に資材を目にした全員が、あまりの大きさにビックリして「どうやって作業を

進めればいいのか？こんな大きな資材の加工、終わることができないのだろうか？」と不安になり、取り掛かりにも右往左往していました。

作業をするにも、資材の設置や、利用者の方の人員配置をどうするのか職員も戸惑うばかりでした。

試行錯誤を繰り返して

この作業には裁断、折り、結束と大まかに3つの工程があります。資材を回転させるにはどのように作業台を設置するか、台をどの方向に向けるか、また、利用者の方が加工しやすい位置はどこになるのか、どうしたら上手に結束ができるかなど、試行錯誤を繰り返して最適な場所を探し作業環境を整えていきました。

大きく改善が必要だったのは、折りから結束の工程でした。いくらきれいに裁断し、結束してもズレが生じてきてしま

ます。そこでの工夫は、ズレが生じないようにあらかじめ資材に合わせた型を用意しておいて、その中で作業をしていただくことでした。これによりズレが生じても見えやすく、すぐに修正ができるようになりました。

利用者の方には数多くの工程をしていただくのではなく、一つの工程に集中していただくことでスムーズに作業を進めていただけるようになりました。半年が過ぎた現在では、利用者の方、職員も整えられた環境で、協力して取り組んでいます。



型があると分かりやすい☆

結束の工程



☆最初は体力がなく結束作業をするのも大変でしたが、職員が作った補助の道具を使用して簡単にできるようになりました。今では体力もつき、自信ができました。前の工程の人が丁寧に折りたたんでくれるので、作業もしやすく、補助の道具を使用することも減りました。

Nさん

職員の声

当初は大きな資材が入ってきたのを見て、「利用者の方が安全に作業を進めるためにはどうしたら良いか？」と戸惑い、出荷した製品に対しては先方の業者から何度も改善の指示がありました。「これはイカン」と思いますがさまざまな改良を加え、利用者の方も「たくさん作ろう」「丁寧に作らなアカン」と作業を通して応えて下さいました。そのことが大きなバネとなって「もっと分かりやすく、もっとスムーズに」と工程を進めていくようになりました。本当に利用者の方の取り組む姿勢は素晴らしい、一つのチームとして作業ができていますと感じています。

作業担当 山内洋一



みんなの広場

愛道を読んで編

今回初めて「愛道」を読ませていただきました。さまざまな施設の取り組みを知り、実際にふれることがなくても関心がもてました。今は休日を中心に利用をさせていただきますが、ただいておりますが、日中の活動にも参加していきたいと考えています。

記念の1000号ということもあり「愛道」の歴史を知ることができました。大変長い歴史があり、その歩みも分かりやすく書かれていたのでさらに深く読みたいという気持ちになりました。次の発行が楽しみです。利用者の方のご家族より